

南京特務機関

一、工作人員

機関員 松岡功

” 佐藤鶴龜人

” 小嶋友千

” 馬淵誠剛

” 丸山進

二、工作開始期日

昭和十二年十二月二十四日

三、戦前南京市一般概要

面積 五二万料

人口 約一、〇八〇、〇〇〇人

位置 揚子江に沿ひ江口を距ること約四〇〇料、南京、上海

間鉄路の延長約三二〇料ナリ

交通 首都たりし為鉄路、公路共四通八達し且揚子江に臨める為

水陸交通共に至便ナリ

物産 政治都市乃至消都都市たる為に、特筆するに足る物産なし

新式工業に属する工廠も若干数を算すれと寥々たるものなり

四、宣撫工作一般概要

南京班第一回報告（一月二十一日提出） 皇軍占領後の南京市概況

一、緒言

南京市は南北約二里東西約一里半の地域を占め、四辺に堅固な城壁を廻らし、今次事变前迄は人口約一〇六万を擁し、国民政府の首都として其の経営、建設に多大の苦心が払はれ居りたり

去る十二月十三日皇軍が頑強なる敵の抵抗を排除し、南京を占領せる際には、人口も著しき減少を示し居りしも、而も尚逃け遅れ城内に避難し居りし支那民衆は大人男子一〇万、女子五万、少年少女五万計約二〇万と推定せられ、是等難民の処理如何は皇軍入城後即時に当面せる大問題たりき

三、治安宣撫 対難民問題

初め二〇万を数へる是等避難民は独人ラールを会長とする国際委員会の手収容され、市内中央西部一地域（外国人所有建築物多き地点）を画して之を難民区とし、食糧其の他生活品は総て国際委員会の手を

通して配給され居たり

然るに皇軍入城後は市中の治安恢復著しく、宣撫工作のも又見るべきものありて、一月元旦には陶錫三氏を委員長とする南京自治委員会が成立され、茲に該会は一月五日二〇万の難民を国際委員会より接收するに至れり

尚我が軍に於ては、南京が完全に皇軍に包圍され、逃亡の余地全然なかりし点より推し、此の難民中には必ずや多数の敗残兵、不逞分子が潜伏しあるものとみ、一月六日に至る迄、毎日嚴重なる捜査を行ひて其の検出に努め、全員を査問して多数の敗残兵を摘出せしか其の他一般無辜の良民には、其の良民たることを証する「安居の証」を交付して、安居せしめたり

併し乍ら、已に大半以上廢居と化せる南京の現状から推して二〇万と謂ふ龐大な人口の救済をなすは、極めて困難なる事に属し、先づ食糧問題が当面の重大問題として日程に上り来れり。而して本件に關しては当面の解決策として我軍の占領せる糧秣を自治委員会に無償にて払